

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

日本大百科全書

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

13
すけーせん

小学館



日本大百科全書 13

©SHOGAKUKAN 1987
昭和62年1月1日 初版第一刷発行
定価 7,800円

編集著作
出版者 相賀 徹夫

発行所 小学館

郵便番号 101
東京都千代田区一ツ橋2-3-1
振替 東京8-200番
電話 編集・東京03-230-5620
業務・東京03-230-5333
販売・東京03-230-5739

印刷所 凸版印刷株式会社

本文
(特抄百科用紙) 王子製紙株式会社

口絵
(特抄アート紙) 三菱製紙株式会社

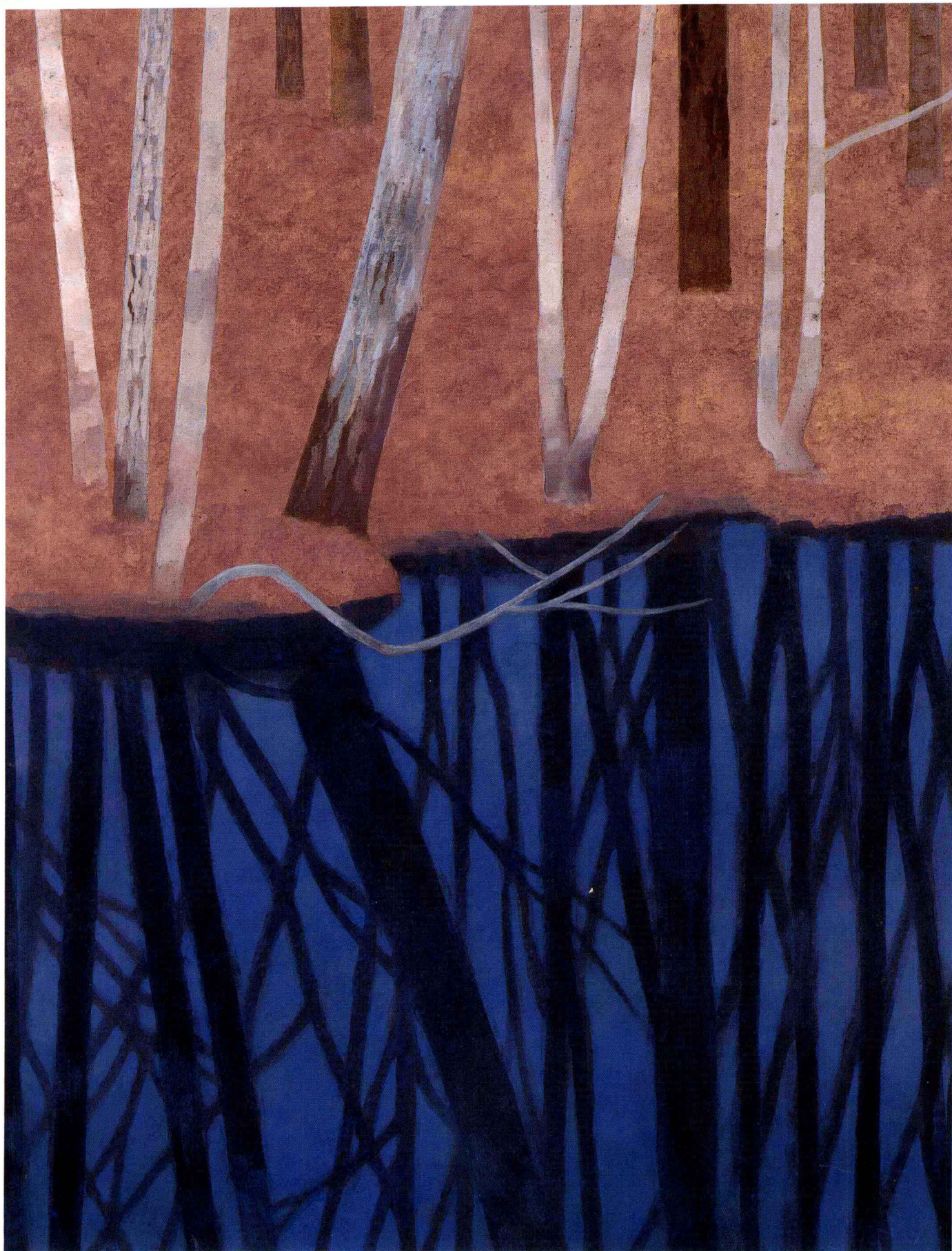
表紙
(特製クロス) ダイニック株式会社

製本 凸版印刷株式会社
若林製本株式会社

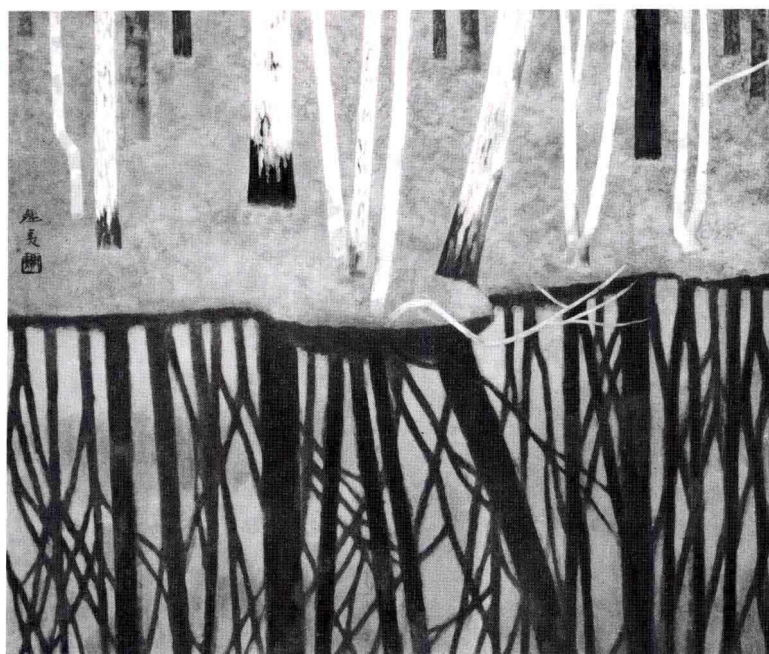
- * 本書に掲載した日本関係地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図、5万分の1地形図、20万分の1地勢図、2万5千分の1土地利用図を使用したものです。
本書の232ページに掲載した「駿河湾／ビュー・マップ」は、海上保安庁水路部発行の20万分の1海底地形図「駿河湾」(第6362号)を使用し、コンピュータにより調製したものです。
水路図誌複製「海上保安庁承認第610346号」。
- * 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。
- * 本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

Printed in Japan

ISBN4-09-526013-0



東山魁夷『冬影』部分



東山魁夷画『冬影』

1958年（昭和33）59.0×72.0cm

落葉を踏んで、冬近い林の中を歩く。
葉の落ち尽した樹々が、
静かに語る言葉を聴こう。
微動もしない樹影を映して、
ひっそり静まりかえる沼のほとりで。

（東山魁夷・文）

ハレー彗星に思う

去年の暮れから今年の春にかけて、七六年ぶりに地球に近づいたハレー彗星が話題を賑わした。私も長生きしたおかげで、この彗星に二度であう機会にめぐまれたが、専門の植物研究のほうに忙しくて、今回はついに見ることができなかった。

前回は明治四三年（一九一〇）で、私が郷里（秋田県湯沢市）の小学校に入った年であった。ちょうどその頃、町につきはじめた電気灯が珍しくて、友だちの二、三人とわいわい騒いでいた暮れ方であった。西空低く、南から北へ、星くずの集まりのようにぼんやりと光り、長い尾を引いているその星を見た。尾の長さは五、六間はあったように思われた。街灯の明るさと、不思議な星を見た驚きとが重なり、いつそう記憶を鮮明にしたようだ。そのうえランプ掃除から解放された喜びが加わっていた。その頃、私の家もまだ石油ランプを使っていた。「おまえは小学校に入ったのだから、ランプ掃除ぐらいはやれ」と、父にいわれていた。石油を入れ、芯を切り、ホヤを磨く仕事を四月からしていたが、やっと家に電灯がつくことによって、この仕事をまぬかれることになった。

彗星の印象は、人により、見る場所により、またその時の天候によって違うのは当然であろう。斎藤茂吉氏は「うつつくしく瞬きてゐる星ぞらに三尺ほどなるははき星をり」（歌集『赤光』）と詠じており、内田百閒氏は「岡山市内で見たが、尾の長さは目測で一丈より長いと思った」と書いている。石川達三氏は、秋田市榑山で見たが、尾の長さにはふれず、「彗星はうすばんやりした火の玉で、野球のボールくらいの大きさに見えた。多分電灯は普及していなかったと思う」といっている（『天文ガイド』別冊号外、ハレー彗星より）。宮地政司氏は、岡山市付近の原っぱで見たが、尾の長さや星のことにはふれず、ランプが電灯に替わる頃だったという（『読売新聞』昭和六一年三月五日）。私をいれて三人が、この頃に電灯がつきはじめてことを思い出しているのは興味深い。

ところで、ハレー彗星に関する日本最古の記録と思われるものが昨年見つかった。秋田県湯沢市立図書館に保管されている「佐竹南家御日記」の天和二年七月晦日（注、新暦九月一日）の項に「一、同日不思議成星罷出候但いぬ亥ノ方ニ如此之星ニ御座候」の文と、簡単なスケッチが記されているのを郷土史家の伊藤正氏が見出した。そのコピーを星の古記録の研究者である斎藤国治氏に調べてもらい、ハレー彗星に間違いないことがわかり、郷土の話題をさらった。

「佐竹南家御日記」とは、六代義敏の天和二年（一六六三）から慶応四年（一八六八）までの一八六年の、日々のできごとを用人が書いたもので、二七一冊が現存する。その日記がはじまった年にハレー彗星が現われ、その記録が三〇四年後の今回の彗星出現の機会に確認された。南家一九代にあたる私は、そのことに何かの奇縁を感じる。今年の彗星をこの目で見ることができていたなら、さらにまた特別の感慨があったらうと思われる。

佐竹義輔

（佐竹義輔）

装 丁

亀倉雄策

本扉／書

青山杉雨（連作書体のうち、初唐時代の楷書）

巻頭口絵

東山魁夷

本文五十音題字

木元壽美江

すけ



次官 すけ 令制下の官司に置かれた四等官の第二。最高責任者である長官を補佐し、長官欠員の場合、その職務を代行する。官司の種類によって用字は異なり、八省では輔、職では亮、寮では助、国司では介となっている。↓四等官

スゲ 〔菅〕 **〔学〕** Carex カヤツリグサ科スゲ属植物の総称。非常に大きな群で全世界に約二〇〇〇種ほど知られ、東アジアと北アメリカに多い。日本には二一〇種ほど自生する。葉や稈はイネ科植物に似て、イネ科とよく混同されるが、普通は稈は三稜形で稈の内部は詰まり、葉は根生する。花は単性で鱗片の腋につき、花被

はない。雄花は三本の雄しべからなり、雌しべは果胞とよばれる壺状の器官に包まれる。縁が合着せず果胞が壺状にならなかったり、一部合着するものは、ヒゲハリスゲ属 *Kobresia* として別属にされる。小穂は多数の花が螺旋状に配列したもので、多くの種では雄小穂と雌小穂に分かれている。マスカサ、ナキリスゲ、ジューモンジスゲなどでは一つの雄小穂に雄花と雌花がつく。いずれにしてもスゲ属植物は雄花と雌花が同一個体につく雌雄同株であるが、コウボウムギ、エゾノコウボウムギ、ヤリスゲ、カンチスゲは雌雄異株である。円錐花序で頂部に雄花、基部に雌花からなる小穂をつける群は熱帯

- a: 雌花の鱗片 b: 果胞
- ① ジューモンジスゲ
 - ② カサスゲ
 - ③ ナルコスゲ
 - ④ コウボウムギ
 - ⑤ ヒメスゲ
 - ⑥ ヒゴクサ
 - ⑦ タガネソウ
 - ⑧ アオスゲ
 - ⑨ ニシノホンモンジスゲ
 - ⑩ タヌキラン
 - ⑪ ゴウソ
 - ⑫ アゼスゲ
 - ⑬ マスカサ
 - ⑭ ナキリスゲ
 - ⑮ ミノボロスゲ
 - ⑯ タマツリスゲ
 - ⑰ カンスゲ

菅笠 すげがさ 笠の一種で、カサスゲというスゲを材料として縫いつづつた笠（縫い笠）の総称。縫い笠は、すでに「笠縫」の語が記紀などにあるように歴史は古い。平安時代の市女笠、桔梗笠、江戸時代の殿中、一文字、平笠、三度笠、加賀笠、さんざら笠などは、いずれもスゲの縫い笠で、形態的には円盤形、円錐形、円錐台形、帽子形、光円球形、襷折形、桔梗形がある。これらは外出、旅行や雨天時に用いられていた。笠の着装には、内側に藁あるいはモロコシなどでつくった笠輪をつけて笠当てにし、紐で頭に固定する。男女とも用い、北海道、沖縄を除いて広く全国的にみられたが、近年では東日本の農山村の一部で使われるだけとなった。日本の民俗芸能のなかには菅笠を持って踊る菅笠踊りも伝承されている。（小川直之）

アジアに多く、もともと原始的な群である。日本にはジューモンジスゲやアブラシバが知られている。カンスゲやアオスゲは単性の小穂が総状に配列し、頂小穂は雄花からなる。日本のスゲの多くはこの群に属している。マスカサでは花序はさらに単純化して穂状花序となり、花序中に雄花と雌花がつく。スゲ属植物のなかではもっとも進化した群と考えられ、日本に約二十数種知られている。

スゲはイネ科に比べ利用度が少なく、笠や蓑、縄などをつくるのに利用されるにすぎない。地方によって使われる種は違うが、福島県只見地方ではカサスゲで笠を、ミチノクホンモンジスゲで蓑をつくる。斑入りのものは庭に植えられ観賞用にされるものも多い。また家畜の好飼料になるものも多い。現在では人間の生活にはあまり縁がないが、古代日本社会では田の神の宿る植物としてたいへん神聖視された。菅と清は同じ語源に由来するといわれる。『万葉集』ではスゲはハギ、アシに次いで多く四九首も詠まれている。

〔木下栄一郎〕

助郷 すけごう 江戸時代、街道宿駅の常備人馬だけでは継ぎ送りに支障をきたす場合、補助的に人馬を提供する宿駅近傍の郷村、またはその課役・制度をいう。このような助郷の概念規定のあいまいさは、その成立時期について諸説を生んでいる。まず、鎌倉幕府の執権北条氏の交通政策、豊臣政権の宿駅の人馬超過に関する法令に、助郷の濫觴または成立を認める説、さらに江戸幕府の一六〇三年（慶長八）、一六一年（元和二）、一六三七年（寛永一四）、あるいはその後の交通政策に指標を求める説などがあるが、これらは事実上助郷の機能を果たすものと、幕府権力が指定した強制的賦役としての助郷とに対する理解の違いによるところが大きい。

幕府は一六九四年（元禄七）新たに助郷制を画定したが、それは従来の助郷が封境・国郡を限界としたのを改めて、各宿駅近傍の村々を付属助郷に指定し、高百石につき二人・二疋の人馬役負担とした。そして東海道宿駅では定助郷・大助郷の二本立て、中山道・日光道中は大助郷のみ、奥州・甲州両道中では幕府指定の助郷はないが、臨時に宿駅近傍の人馬を徴発する態勢をとった。一七二五年（享保一〇）東海道では定助郷・大助郷を統一して定助郷に一本化し、中山道などでも大助郷を定助郷と改称した。ここに助郷制度は確立するが、元禄度の人馬負担基準はならぬ止めとならず、江戸後期にはその数百倍に達した。定助郷は宿駅近傍の一〇〜二〇数か村からなる基本的な助郷で、本助郷ともいうが、負担過重のため疲弊して他の郷村が代役を勤める代助郷以下、課徴範囲を拡大した加助郷、増助郷、当分助郷など、各種名目の助郷が次々に設定されていった。

こうした傾向は宿駅と各種助郷以下との人馬役負担・賃金配分をめぐる紛争を激発させ、このため定助郷村などは助郷惣代を宿場内の助郷会所に派遣、宿役人らの不正な取り計らいを監視させている。宿駅・助郷間の諸矛盾が、幕府権力や宿駅問屋、名主、豪農に対する広範な農民大衆の抵抗として爆発したのが、一七六四〜六五年（明和一〜二）の武蔵、上野、信濃および下野の一部にまたがり参加者二〇万人余に上る伝馬大騒動である。その後、宿駅と助郷とは、複雑で多様な対立・抗争を繰り返し、幕末期には訴願・強訴を含めた助郷反対闘争を展開、世直し一揆へと突き進んでいった。なお、

脇街道の宿駅では、定助、加助、大助などの助郷が設けられたが、そうでないところでも全藩的または郡規模の人馬徴発が行われ、その役負担は過重化の一途をたどっている。助郷は一八七二年（明治五）の陸運会社社の設置によって完全に廃止された。↓宿駅制度 ↓宿場 ↓伝馬騒動

●丸山雅成著『近世宿駅の基礎的研究』全二巻（九五・吉川弘文館）

スケソウダラ スケトウダラ

頭血腫 ずけっしゅ 頭血腫

絵、素描、略図などを意味する絵画用語。原義は概要、草案、断片的な描写の意味で、建築、デザイン、文学、音楽などの分野でも用いられることがある。スケッチは、対象の概念や特徴をとらえるための画家の修業手段であるが、またとくに完成作のための下絵や試作をさし、詳細な念の、簡略なものとの別を問わないが、一般にそれ自体を最終作としない作品を総称する。フランス語に由来するエスキス *esquisse* もほぼ同様の意味である。スケッチの多くは素描の形態とみることができ、しばしば油彩による簡単な習作もスケッチとよばれる。クロッキー *croquis* は主として人物、動物などの動く対象を短時間に描写する速写のスケッチあるいは素描である。

またスケッチブックは画帳全般をさし、特定された概念とはいいがたいが、ルネサンス時代以来画家の残した画帳は、レオナルド・ダ・ヴィンチをはじめデューラー、レンブラント、セザンヌ、ピカソなど、美術史研究の重要な資料であるのみならず、しばしば独自の作品形態となつていく。↓素描

スケッチ・ブック Sketch Book

アメリカの作家アービングの短編・随筆集。ジェフリー・クレモン Geoffrey Crayon という筆名で書いた随筆・短編小説など三四編を集めた作品で、アメリカでは一八一九年から二〇〇年にわたって分冊の形で、イギリスでは一八二〇年に一冊の本として出された。数年の間にドイツ語、フランス語にも訳されて、この作品によりアービングはアメリカ最初の国際的な作家となった。収録されたものほとんどは「ウェストミンスター寺院」「ジョン・ブル」などイギリスの古い伝統をしのんだり、イギリス人の国民性・風俗習慣について、ユーモアを交えたロマンチックな観察だが、うち六編はアメリカを背景にした作品で、「リップ・バン・ウィンクル」「スリーピー・ハローの伝説」などがある。二つとも、ヨーロッパ旅行中に得たライン川地方の民俗伝承をアメリカの風土に取り入れたものである。

とくに「リップ・バン・ウィンクル」は短編としてのおもしろさから、各国に読者をもち、英語の教科書として広く読まれた。話の粗筋は、ハドソン河畔のオランダ系移民の村にリップ・バン・ウィンクルという、妻に頭のがらない好人物がいて、ある日、愛犬とともに妻の小言から逃れて山中に入り、奇妙な姿のオランダ人の一団に会う。酒をふるまわれ、すっかり寝込んでしまい、一夜を山中で過ごす。翌日起きて村へ帰ってみると、村はすっかり変わってしまっていて、一夜のうちに二〇年もたつてしまっていた。時代も植民地時代からアメリカは独立国になっていた。うるさい妻もすでに亡く、娘一家と過ごすことになるというもののだが、リップは後のアメリカ的人物の典型の一つとなる。筋が「浦島伝説」に似ているので森鷗外が一八八七年（明治二〇）「新浦島」として訳して以来、邦訳は一〇冊を超える。

アービングのほとんどの作品はヨーロッパの模倣からアメリカ的なものをつくりだそうと模索したもののだが、彼の視点ヨーロッパの文化にたつてのアメリカ観察で、古い文化に対する懐古趣味もそのためである。しかし、もともと成功した『スケッチ・ブック』のなかの作品には、当時のアメリカ社会の変容を暗示するとともに、その後のアメリカ小説の技法に貢献した点のあることは無視できない。《秋山健》

●スケッチ・ブック（高垣松雄訳・岩波文庫）

●田部重治訳・角川文庫／吉田甲子太郎訳・新潮文庫

スケート ice skating 編上げの革靴の底に、ブレードとよぶ長い金具を取り付けた滑走用具（スケート）をはいて、氷上を滑走するスポーツ。アイススケートともいう。スケート競技にはスピード speed、フィギュア figure、アイスホッケー ice hockey の三種類がある。同じスケート滑走でも、スピードとフィギュアは個人のスケート滑走、アイスホッケーは団体競技のスケート滑走である。一九六五年（昭和四〇）ころまでは、山間の湖沼で自然氷を相手に滑っていたが、現在では人工氷が発達したの

で、一般スケートも競技会も人工氷を利用することが多くなっている。

〔起源と歴史〕スケートの歴史はスキー同様に古く、石器時代にまでさかのぼるといわれている。ヒツジ、ウマ、トナカイなど動物の骨でつくった滑走用具が、北ヨーロッパで穴居生活の跡から発見されている。これらはスケート用具ではなく、湖沼を張り詰めた氷上の運搬用具と思われる。骨にはところどころに穴があいていて、いろいろの器具に結び付け、滑り用具にしたと考えられる。これらの滑走用具はまず骨製から木製のものにかわり、さらに鉄製のスケートへと移り変わったが、スポーツに用いられるようになったのは近代からである。最初はフィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマークの北欧人の間に始まり、ついでオランダ、イギリスに渡り、製鉄技術の進歩とともに各地へ急速に広まった。スケートが中世以降、レジャーからスポーツへと発展した最初の拠点はオランダである。オランダは雪が少なく、網の目のように発達したクリークは、冬季はことごとく結氷して絶好のスケート場となった。

スケートが競技として発達したのは一八世紀後半からで、まずオランダで運河利用の女子スピード競技が行われ、前後して北ヨーロッパでも始まった。一九世紀になってからは、フィギュアスケートが中央ヨーロッパ、ロシア（ソ連）、さらにアメリカで盛んになった。一八九二年には国際スケート連盟（ISU）が組織され、その翌年にはスピードスケートの男子世界選手権、フィギュアスケートの世界選手権大会も九六年から始まった。スケート競技は冬季スポーツの花となった。そして、第一回のオリンピック冬季大会が一九二四年一月二五日から二月四日までフランスのシャモニーで開かれ、世界選手権大会とともに現在に至っている。

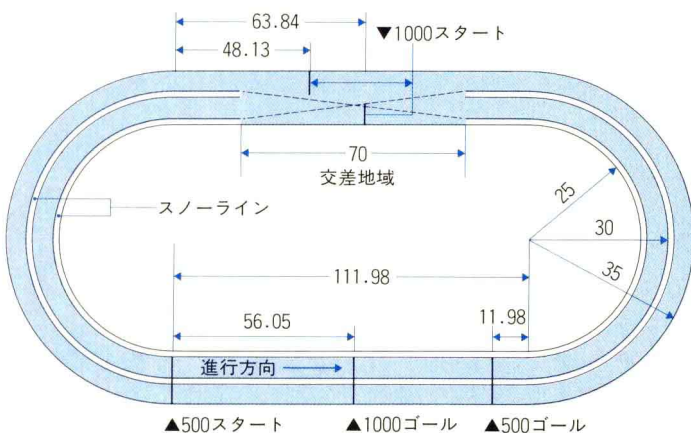
日本では、一八七七年（明治一〇）札幌農学校（北海道大学の前身）教師アメリカ人 W・P・ブルックスがスケート用具を持ってきたのが日本渡来の最初とされ、ついで九一年三月新渡戸稲造がアメリカから母校の札幌農学校へ三足のスケートを持ち帰って学生に滑らせている。札幌は日本におけるスケートの発祥の地となり、しだいに全国に広がった。一九〇五年（明治三八）長野県諏訪湖地方に中央線が開通してから、諏訪湖は日本におけるスケートの中心地となり、全国からスケートの愛好家が集ま

すけと

スケート 靴とブレード



競技場 スピードスケート400m標準ダブルトラック(単位: m)



フィギュア用ブレードの先端にはトー(ぎざぎざ)がついており、これを利用してジャンプやスピンの行う

った。日本のスケートは学生を中心として発達し、二四年(大正一三)早大、慶大、東大、明大、日本歯科、二高、松本高により全国学生氷上競技連盟(現在の日本学生氷上競技連盟の前身)が結成されて、翌年信州松本の六助池で第一回学生スケート選手権大会が開かれた。これから学生のOBを中心に、二九年大日本スケート競技連盟(現在の日本スケート連盟J.S.F.)が組織され、翌年からスピード、フィギュア、アイスホッケー三種目の全日本選手権競技大会が八戸、日光で始まった。

日本がオリンピック冬季大会に出場したのは一九三二年(昭和七)アメリカ、レーク・プラシッドの第三回大会からで、その後は第二次世界大戦終了直後のサン・モリッツの第五回大会を除いて毎回出場している。戦後は国際交流が盛んになり、オリンピック、世界選手権、各種の国際競技会に出場、五四年(昭和二九)と六三年には札幌と軽井沢でスピードスケートの世界選手権大会が開かれ、さらに七二年には待望の冬季オリンピック大会が札幌で開かれた。この年アイスホッケー種目が日本スケート連盟から独立して日本アイスホッケー連盟をつくり、七五年、七七年の二回にわたってアイスホッケーBグループ世界選手権を札幌、東京で開いた。日本スケート連盟も七七年フィギュアスケート世界選手権大会を東京で開いて、国際交流は内外ともに盛んになった。

「スピードスケート」 speed skating 一八世紀から、オランダを発祥の地として発達した。イギリスでは一九世紀に入って盛んに行われ、さらに、ノルウェーでは一八六三年三月一日最初のスピードスケート競技会が開かれた。当時のレースの距離は一マイル、二マイル、五マイルさらに一〇マイルのような長い距離で、かつ集団スタートのレースであったが、八二年ウィーンで初めて一六〇〇mのトラックでレースが行われた。スケートが盛んになるとともにヨーロッパ各地にスケート団体が生まれ、九二年これが各国単位で集まり国際スケート連盟が組織され、翌九三年第一回男子スピードスケート世界選手権大会が開かれた。男子に対し女子選手

権は一九三六年から始まった。日本が国際スケート連盟に加盟したのは一九二六年(大正一五)であるが、日本最初のスピードスケート競技会は、それより前の一九〇九年(明治四二)信州諏訪湖で行われている。それは諏訪湖一周スケート大会で、スピードスケートは、これがきっかけとなって急速に盛んになった。しかし競技方法が本格的になったのは、二九年(昭和四)に大日本スケート競技連盟が結成され翌三〇年第一回全日本スピードスケート選手権大会が青森県八戸市長根リンクで行われてからである。全日本選手権大会は以後今日まで第二次世界大戦中の三年間を除いて毎年行われ、国際交流も盛んになった。オリンピ



- ① 鈴木恵一。世界選手権の500mレースで5度優勝するなど活躍
- ② エリック・ハイデン(アメリカ)。冬季オリンピック第13回レーク・プラシッド大会のスピードスケート5種目すべてに優勝
- ③ 世界スプリント選手権(1986年2月、軽井沢)の女子500mレース。手前は1000mで世界新記録をつくり総合優勝したカリン・カニア(東ドイツ)、後方は500mの世界記録保持者クリスタ・ローテンブルガー(東ドイツ)
- ④ イゴール・ゼレゾフスキー(ソ連)。1985、86年の世界スプリント選手権で総合優勝を果たした
- ⑤ オランダの200kmスケートレース。いっついた運河を利用して行われるレースで、1985年は1万6000人が参加。優勝者のタイムは6時間47分だった
- ⑥ ショートトラックレース。1983年世界ショートトラック選手権(東京)の女子1000mレース。カーブの急なコースをスピードをロスせずに曲がりきることが重要

ツク出場は、アメリカ、レーク・プラシッドの第三回大会を最初の出場として、第四回のドイツ、ガルミッシュ・パルテンキルヘン、第二次大戦後は五二年（昭和二七）のノルウェー、オスロの第六回大会から今日まで毎回出場し、世界選手権大会への出場も同様である。しかもこの間、五四年には札幌で男子世界選手権、六三年には軽井沢で男女二つの世界選手権大会を開いている。軽井沢の男女同時期の世界選手権大会は国際スケート連盟創立以来の壮挙とされている。国際スケート連盟では一九七〇年から男女とも五〇〇、一〇〇〇歳のスプリント世界選手権大会を新設、七六年からは室内リンクを主としたショートトラック・スピード競技会を始めている。スプリント競技とショートトラック競技は日本選手には得意の競技とされている。

【競技方法とルール】 競技場すなわち標準トラックには、四〇〇メートルトラック、三三三・三メートルトラック、三八四・一八メートルシングルトラック、一一・一二メートルトトラックの四種類がある。

(1) 競技種目　世界および日本選手権競技が男子五〇〇、一五〇〇、五〇〇〇、一万回の四種目、学生選手権にはこのほか二〇〇〇回のリレエーが加わる。女子は五〇〇、一〇〇〇、一五〇〇、三〇〇〇回の四種目。オリンピックは、男子一〇〇〇回のほか加つて五種目、女子は世界選手権と同様である。競技方法は、ダブルトラックを二人で別々に滑るセパレートのレースと、一つのコースを陸上競技と同様に集団で滑るオープンレースの二つの方法がある。二人でセパレートされたダブルトラック利用のレースは世界選手権、オリンピック、全日本選手権、学生選手権および多くの国際競技会が採用してゐる。集団競技は日本の国民体育大会のスケート競技会や地方の競技会に多い。外国ではあまり行われてゐない。一九三二年アメリカのレーク・プラシッドで行われた第三回オリンピックでこの集団競技の方法をとつたが大失敗で、アメリカは不評を被つた。以後この方法は行われず、国際スケート連盟もダブルトラックのみに規定した。

(2)競技方法 二人ずつで滑るレースをタイムレースといい、ダブルトラックが使われる。一人は二分されたダブルトラック内側(インナーコース)、一人は外側(アウトコース)で、同時にスタートする。スタートの滑走路の決定は

抽選で決められ、二人の走者は一周ごとに、決められた交差地域で、外側コースからスタートした走者は内側へ、内側からスタートした走者は外側コースへ入れ替わる。こうしてゴールへ到達したタイムで勝敗が決まる。この方法で幾組かを行い、最終結果を出す。長い距離のレースも同じ方法で行われる。世界選手権、日本選手権は、四種目の総合成績で順位が決まる。ただし一人の競技者が四種目に出場することが条件である。成績は各種目のタイムを五〇〇〇単位で計算し総得点のもっとも少ない者を勝者とする。得点の計算は、五〇〇〇は所要タイムの秒数をそのまま得点とする。一〇〇〇〇は所要タイムの半分を得点とし、一五〇〇〇は三分の一、三〇〇〇は六分の一、五〇〇〇〇は一〇分の一、一万は二〇分の一をそれぞれ得点として、この合計得点を総合競技の総得点として個人順位を出す。これに対して、オリンピックでは、距離別（種目別）に優勝者を決める。

〔ダブルトラック〕一〇畧の幅を五畧幅で二分し、境界はスノーラインと称して雪でラインをつくる。雪のないときは固定しない木片を一〇畧置きに並べて境界線にかえる。内側コースと外側コースの走者が交差する地域は、ゴールの反対側で、ここにはスノーラインはない。走者はここで入れ替わるが、もし両走者が同時に入って衝突の危険のあるときは、外側の走者を優先させ、内側走者は、外側走者を先に内側コースに入れてから外側コースに出る。もし両走者が衝突あるいは接触したときは内側走者は規則により失格となる。

(3) レフェリーの役割 試合運行に関してはレフェリー（審判長）に絶対的権限が与えられ、競技運営上の責任はすべてレフェリーにある。発走順の抽選の司会、計時計時の認定、正式資格ある測量士のトラックの測定、天候・気温・氷温・湿度・風速・雨雪・風向などのコンディションなど気象関係による競技運営の判断、氷上の掃除、散水など氷上整備の指揮・取決めなどを行う。ことに最近ではほとんどが人工リンクで、競技が行われるので、氷質の硬軟などについて、製氷技術者との連絡など、レフェリーとしての審判長の仕事は多く、これらはすべて規約に盛り込まれている。

「世界の情勢」スピードスケートが盛んになってから一〇〇年余を経ているが、この間スピードスケートの王国として氷上に君臨してきたの

は、スカンジナビア半島のノルウェー、スウェーデン、フィンランドの三国である。近年これにソ連、オランダ、アメリカが頭角を現してきてた。ノルウェーのオスカー・マティーンセン、イバル・パラングルト、ヤルマル・アンデルセン、フィンランドのクラス・ツンベルグ、ソ連のオレグ・ゴンチャレンコ、オランダのアルト・シエンク、アメリカのエリック・ハイデマンなど、いずれも忘れたい人たちである。

日本は短距離を得意として、木谷徳雄、石原省三、高林清高、内藤晋、鈴木恵一などの活躍が目覚ましかった。ことに鈴木恵一は世界選手権の五〇〇メートル競技で五度優勝をしている。内外を問わず競技記録は年々更新されているが、これは人工結氷の競技場が世界的に普及したことが好影響を及ぼしている。日本の人工スケート場の普及率も高く各都道府県に行き渡り、すでに一〇〇か所に及んでいる。

〔スケート用具〕 スピード、フィギュア、アイスホッケー、それぞれ型が違っている。スピード用はもつともスピードが出るようにブレード(滑身)の長さが靴より前後に長く、氷に接する面が直線である。フィギュア、アイスホッケーはブレードの長さが靴底いっぱい位の長さで、容易に回転ができるようにスケートの前後が反ってやや丸みがある。スピードスケートの代表的スケートはノルウェーのマティーセンモデル、バラングルートモデルで、日本でも優秀品がつくられているが、ノルウェー製品が多く使用されている。↓アイスホッケー ↓フー
イギニアスケート
〔商角人〕

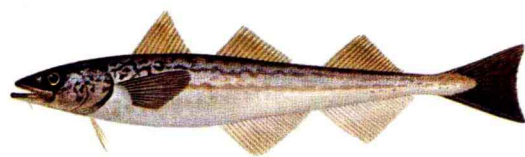
④ 両角政人著『スケート』（元秀不昧堂書店）
スケトウダラ 〔介党鱈・鰻〕 Alaska
pollack / ⑤ *Theragra chalcogramma* 硬骨
魚綱タラ目タラ科に属する海水魚。スケソウダ
ラ、メンタイともよばれる。北太平洋北部とそ
の隣接海域に広く分布し、南限は山口県と宮城
県、アメリカ側ではワシントン州沖。朝鮮半島
東岸にはとくに多い。体は延長し、やせ形で、
下顎が上顎よりも突出するのが特徴。下顎のひ
げはきわめて短いか、またはない。背びれは三
基、臀びれは二基で、体は背部が褐色で腹方は
白く、体側にところどころ中断した約二縦列の
暗色帯がある。全長六〇センチに達する。マダラと
異なり、海底に密着して生息することはない。
しかし、遊泳層や適水温は海域によって異な
り、朝鮮半島東岸沖では四〇～六〇度（水温三

度C)、オホーツク海
北見沿岸では八〇～一
〇〇^度 (水温二～三度
C)、北海道日本海側
で二〇〇～三〇〇^度
(水温二～三度C)、三
陸沖で一五〇～三五
^度 (水温二～五度C)、
ときには四〇〇～五〇

○層層でも漁獲される。産卵期は一二月から翌年四月で、一、二月が盛期であるが、北方ほど遅れる傾向がある。産卵数は体長四〇センチで二五万、五〇センチで五〇万、六〇センチで一〇〇万ぐらいである。卵

は真円状で淡い黄赤色油球を備える（マダラ鰯^{よか}化後一日で後期ら姿を消し、全長三〇センチメートルに達する）。これは成長とともに示している。幼魚は、食べ、成魚は底生甲殻アミなどを捕食する。だが、日本海では満一歳で二〇〜三八センチ、五歳三六〜四八センチに達する。

スケトウダラの分布
「極海のタラ」の血を受ける力が大きいことと、一る。本種の小脳は円筒して烏帽子状に延髄にの小脳は隣発力はあることを示唆している。北海道の利尻島で放流さ沖で再捕され、そのなキ、一日間で一六〇リ、その強い回遊力を○年（昭和五五）には縄などで一五五万ト以上の漁獲量としてはマイ物、冷凍すり身として珍は「たらこ」として珍



スケトウダラ

菅沼 すげぬま 群馬県北東部、利根郡片品村の日光白根火山北麓にある高山湖。「すがぬま」ともいう。湖面の標高一七三・五。白根火山の溶岩による堰止湖で、湖岸線は屈曲に富んでいる。面積〇・八二平方。三つにわけて別々の三湖のようにみえる。東から清水沼、弁天沼、北岐沼といい、北岐沼が最大で、深度も六七メートルも深い。年平均一二五日結氷し、夏も雪解け水で冷たく、濃藍色清澄で美しい。湖水は西に流れ出て八町滝となり、約三〇〇メートル低い丸沼に入る。湖ではマスが養殖されている。一九六五年（昭和四〇）金精道路が日光湯元から菅沼の南岸を経て鎌田、沼田に開通してから観光客が激増した。湖岸にはキャンプ場もあり、夏はとくににぎわう。日光国立公園に属する。

菅ノ沢遺跡 すげのさわいせき 群馬県太田市今泉口にある生産遺跡。太田市の中央部、東西一、南北五にわたる独立丘金山の北東端の南向き斜面にあたる。六世紀末の須恵器窯七基、七世紀後半の古墳二基、一〇世紀代と考えられる鉄精錬炉三基が検出されている。金山の北、東、南斜面全域の各沢で六〜七世紀の間、須恵器生産が盛んに行われていたと考えよく、窯址群が多く存在する。そのなかで一窯址群が全掘された唯一の例が本遺跡である。太田市内には七世紀代の小円墳群が多く、金山産須恵器のおもな供給先であったと考えられる。精錬炉は、操業方法が想定できるほどに遺存状態が良好で、実大模型が群馬県立歴史博物館に保管、展示してある。一九六八〜七七年（昭和四三〜五二）駒沢大学が調査した。〈倉田芳郎〉

助広 すけひろ (二六三〜一八二) 江戸初期の大阪の代表的刀匠。「そぼろ助広」の呼称のあった初代助広（河内守国助の門人）の弟子で二代目。摂津国（大阪府）打出村の出身で、一六五七年（明暦三）越前守を受領。六十七年（寛文七）大坂城代青山因幡守に召し抱えられ、以後、津田の姓を加えて津田越前守助広を名のつた。出藍の誉れ高く、井上真改と並んで大坂鍛冶界に覇を競った。華麗な作風で鍛は精緻を極め、沸深く明るく冴え、刃文は初めに丁子を得意とし、のちに新たに清瀾刃を創始して一世を風靡した。直刃もすこぶる上手で、刀身彫刻は極めてまれである。作風は養子の近江守助直をはじめ、越後守包貞、一竿子忠綱らに影響を与えた。〈小笠原信夫〉

スケープゴート scapegoat 贖罪羊。いけにえの山羊。古代ユダヤでは『旧約聖書』『レビ記』の定めに従って、年に一度ユダヤ人の罪業を山羊に身代りさせ、荒野に放つ儀式を行うことで、自らの罪過を贖ったという。この故事から転じて、個人、集団、あるいは民族の苦難、不安、恐怖、欲求不満、罪意識から派生する憎悪、反感、敵意、攻撃的衝動を本来の原因からそらし、なんのいわれもない、手ごろで、報復や攻撃の可能性の少ない弱者に転嫁し、非難と攻撃の標的として血祭りに上げることをスケープゴート化といい、身代りとして選ばれる象徴的対象が、スケープゴートである。スケープゴートは、偏見と差別から生じやすく、被害者は単に言語的非難・攻撃にさらされるだけでなく、身体的危害や社会的制裁を受けることも少なくない。ナチスによって迫害されたユダヤ人や関東大震災時に虐殺された朝鮮人は、いずれも現代史上における痛ましい事例である。支配者や権力者はしばしば危機的状況に陥る場合、特定の少数民族、社会の少数者集団や逸脱者をスケープゴートに祭り上げて、民衆の不満、憤怒、不安などを巧みにスケープゴートに転移し、政治的、社会的危機を乗り越えようと試みる。スケープゴート化は現代社会における大衆操作の手法として、ますます重要性を高めている。

スケープゴート化には三つの形態がある。第一は強迫型で、他人から脅かされていると信じ込み、一種の被害妄想に駆られて、その相手をスケープゴートにするタイプである。抑圧された無意識的な動機のはけ口が貧弱で、欲求不満が十分に解消されぬままに蓄積されると、強迫型になりやすい。第二は同調型であって、少数民族や少数者集団への不寛容と差別という社会慣習に追従する場合である。同調型は一般に自己の社会的地位を保持するために、社会的正統性をもつ多数派の行動様式に従うのである。第三は扇動家を典型とする打算型である。権力の獲得・維持の手段として用いられ、自らに向けられた批判や攻撃をそらすとか、権力を掌握するのに打倒しなければならぬ政敵に、民衆の憎悪や反感を誘導的に転嫁するとか、異質的に構成された人々や集団を心理的に結合し、その統一的支持を得るためにといった打算的配慮から、戦術的にスケープゴートをねらい撃ちにするのである。宮城音弥はスケープゴート化を悪玉化と訳している。↓大衆操作 ↓差別・偏見

スケルゲード skelgerd 見の心理 合本版（二六六・培風館）
スケルグールド skelgur 東グリンランド南部でみられる長径八、九の第三紀斑岩質結晶分化岩体。周辺部は主として先カンブリア時代の変成岩類で、岩体の形状はロート状と推定されている。貫入した高アルミナ玄武岩質マグマは、冷却の過程で対流を繰り返しながら晶出した有色鉱物、無色鉱物を規則的に分離し、これをあたかも地層のように堆積させた。こうして岩体の下部より上部にかけておおよそ三にわたって造岩鉱物の化学成分は系統的に変化し、斜長石ではカルシウムに富むものからナトリウムに富むものに、単斜輝石、橄欖石ではマグネシウムに富むものから鉄分に富むものに変化している。地球上でもっとも鉄分に富む鉄質斑岩を産すること、元素の濃集過程がもっとも詳細に研究された岩体として著名であり、地球科学の各分野に重要な影響を与えた。この鉄分に富む分化経路は低水蒸気圧、低酸素圧下でのマグマの結晶作用による。〈矢島敏彦〉



助六由縁江戸桜 意休の持つ刀こそ友切丸と知った助六を、揚巻はとどめる。助六(12世市川團十郎)、揚巻(6世中村歌右衛門)、意休(13世市川左衛門)

スケルト川 ―がわ Scheldt フランス

北部に源を発し、ベルギー北部を経て北海に注ぐスケルデ川の別名。→スケルデ川

スケルトン John Skelton (1460? - 1529) イギリスの詩人。オックスフォード、ケンブリッジ両大学に学び、「桂冠詩人」の称号を受ける。ヘンリー七世の信任を得て宮廷に入りし、王子(後のヘンリー八世)の教育に携わり、のち聖職につく。不規則に押韻する短い行からなり、緊迫した印象を与える独特の詩形を駆使して、宮廷と教会の腐敗、とくに枢機卿ウルジー批判の風刺詩を書く。ほかに戯曲もある。彼は思想的、手法的にも、中世から近代への過渡期に位置している。

助六 すけろく 浄瑠璃、歌舞伎劇、音曲などの登場人物、およびこれを主人公とした作品の通称。延宝(一六三〇)または宝永(一七二四)ごろ、大坂千代寺であったという町人萬屋助六と島原の遊女揚巻の心中事件が典拠で、京坂では事実に沿った情話として脚色、一中節『蟬のぬけがら』『大坂助六心中物語』をはじめ、歌舞伎脚本『助六心中紙子姿』『京助六心中(ともに一七三〇)、人形浄瑠璃『萬屋助六二代掃』(並木丈助作・一七三五)、紙子仕立両面鑑』(菅専助作・一七六六)などがつくられたが、江戸ではこれから脱化して『俠客物』となり、一七一三年(正徳三)の『花館愛護桜』以来代々の市川團十郎が演出を洗練し、歌舞伎十八

番の一つ『助六由縁江戸桜』として今日に伝わった。舞踊化作品も一七六四年(明和一)二世瀬川菊之丞初演の長唄『女助六』をはじめ数多いが、なかでは四世中村歌右衛門が八変化『花館唇色所八景』(一七三三)のなかで踊った長唄『助六』(一〇世紀屋六左衛門作曲)が現存。また、生世話風のパロディにした脚本に四世市川小団次が一八五八年(安政五)に初演した『黒手組助六』があり、『黒手組曲輪達引』の外題で今日も上演される。→黒手組曲輪達引

助六由縁江戸桜 すけろくゆかりのえとくら 歌舞伎劇。時代世話物。一幕。通称「助六」。歌舞伎十八番の一。『俠客花川戸助六』は曾我五郎は、宝刀友切丸詮議のため吉原へ入り込み、愛人の三浦屋揚巻に横恋慕する金持の武士懸の意休のもつ刀こそ友切丸と知り、意休を討って刀を取り返す。ほかにもおんな登場人物は、助六の兄白濁売新兵衛実(曾我十郎、母満江、揚巻の妹分の傾城白玉、意休の子分のかんべら門兵衛、朝顔仙平など。物語は単純だが、絢爛たる吉原仲町の町を背景に、揚巻・白玉ら傾城の豪華な道中、揚巻の意休への悪態、助六が河東節を地に花道で美しい振を見せる「出端」、意休一味との啖呵と悪態のやりとり、遊客に喧嘩を売って股をくぐらせる滑稽味、助六を意見する母の情愛、また省略されることも多いが、意休を斬った助六が天水桶の本水に隠れる「水入り」のスリルなど、見どころは多い。

本来は上方で生まれた「助六心中」の情話が江戸で脱化して俠客物になった作品で、一七一三年(正徳三)四月山村座で二世市川團十郎が初演した『花館愛護桜』に始まり、再演の『式例和曾我』(一七三六)以後は曾我狂言の一部に扱われ、五郎が宝刀詮議のため助六と変名するという構成が恒例になり、三度目の上演(一七四四)で現行の形式がほぼ定まった。地に河東節を使ったのは一七三三年(享保一八)市村竹之丞所演の『英分身曾我』からで、その浄瑠璃名題『助六所縁江戸桜』に基づいて、今日の狂言名題が生まれた。歌舞伎十八番に選ばれたのは一八三二年(天保三)の七世団十郎所演からである。なお、尾上菊五郎家では河東節にかえて他の浄瑠璃を使い、近年は清元地の『助六曲輪菊』に定まっている。

④諏訪春雄編著『歌舞伎オン・ステージ17 助六由縁江戸桜はか』(一九六五・白水社)

須古 すこ 佐賀県杵臼郡白石町西部の地区。旧須古村。中世末の須古城(高城)跡などで知られている。有明海湾奥部に臨む白石平野の西部に位置し、古代の条里制遺構が残り、西方には万葉の歌垣山とされる杵臼山がある。中世史料に「須古庄」、近世絵図に「須古郷」「須古村」。近世は須古鍋島氏の所領。出水法要の「水堂さん」で知られる安福寺もある。→白石(町)

④二万五千分の一地形図「牛津」「牛屋」「武雄」「鹿島」

スコア 総譜

菅生遺跡 すこういせき 千葉県木更津市大字菅生より、現在の小櫃川河床を経て、大字大寺に至る古代水路を中心とした集落遺跡。一九三七年(昭和一二)より七三年の間、第一次より第三次まで延べ九回にわたる発掘調査が行われた。現地は下層に弥生中・後期、中層に古墳時代後期、上層に奈良・平安時代の遺構・遺物を出土している。弥生中期の第二号住居跡では多くの完形土器とともに、関東には珍しい太形蛤・列状石器二のほかに、柱状扶入石器五、鉄斧二を出土した。遺跡の中心をなす中層では、土師器や須恵器とともに大量の木製容器や坐臥具、装身具、紡績具、機織具、祭器具、農具、建築材などを出土し、古墳時代の民衆生活を知る有力な手掛りとなった。

菅生石部神社 すこういそべじんじや 石川県加賀市大聖寺敷地町に鎮座。通称敷地天神。菅生石部神を祀る。社伝では用明天皇一年、当地に疫病が流行し、その鎮護のため祀ったのを創祀とする。八八三年(元慶七)正五位下を授けられ(三代実録、九四〇年(天慶三)正四位下)に延喜式内社といわれ加賀二宮。木曾義仲が当社に「のほ(野美)の庄」を寄進した(平家物語)のをはじめ、武家の信仰厚く、江戸期には金沢の前田家や大聖寺藩の崇敬を集めた。旧国幣小社。例祭日二月一日に行われる御願神事(竹割祭)は勇壮な魔除け神事として有名。社宝に時絵角赤手箱(国重要文化財)などがある。

菅生事件 すこういけん 一九五二年(昭和二七)六月二日未明、大分県菅生村(現竹田市)の駐在所でダイナマイトが爆発した事件。警察は日本共産党による武力闘争の一環として後藤秀生ほか五名の共産党員を逮捕し、起訴した。戸数三五〇という寒村に一〇〇余名の警官と数名の新聞記者が待機する前での爆破事件であった。五五年、大分地方裁判所は有罪の判決を下したが、被告らは、事件はでっち上げであり、「市木春秋」なる人物が真犯人であると主張、控訴した。控訴審中の五七年、共同通信社特捜班が、東京に潜んでいる市木こと戸高公徳をつきとめた。戸高の証言により、事件当時、戸高は国家地方警察大分県本部警備課に配属され、共産党の活動の実態を探知していた警察官であり、ダイナマイトを入手し、駐在所に運んだのも戸高であることが明らかになった。このため、五八年の二審判決(福岡高裁)で、駐在所爆破について後藤らは無罪となり、六〇年一月検察側上告も棄却された。他方、戸高も五九年、刑の免除を受け、警察当局に対する疑惑が残された。戸高はのちに警察大学校特別捜査幹部研修所教授などの要職につき、警視長に栄進、八五年退職した。

④上田誠吉・後藤昌次郎著『誤った裁判―八つの刑事事件』(岩波新書)▽田中二郎・佐藤功・野村二郎編『戦後政治裁判史録2』(一九六〇・第一法規出版)

崇光天皇 すうこうてんのう (一三三六) 北朝第三代天皇(在位一三三六)。名は興仁、益仁、伏見殿。光厳天皇の第一皇子。母は陽緑門院藤原秀子(父正親町公秀)。一三三八年(暦応一)八月立太子、四八年(貞和四)一〇月踐祚、翌年一二月即位した。五一年(観応二)足利一門の内紛に伴い南北の一時的和議になると、南朝の後村上天皇が京都に迎えられ、崇光天皇は廃位され、太上天皇の尊号を受けた。翌年北朝・足利能らの南軍により、光厳、光明両上皇とともに賀名生(奈良県吉野郡)に移された。五七年(延文二)京都に帰り伏見殿に住し、九二年(明德三)出家した。陵墓は京都市伏見区桃山の大光明寺陵。

スコカイイソメ 「菓沙蚕磯目」(小野信二) *putra bibbata* 環形動物門多毛綱ナナティン科に属する海産動物。貝殻片、海藻、ごみなどを食べた管の中にすむところからこの名があり、またフクロイソメ、フクロムシ、サヤムシ、スミシなどいろいろな地方名がある。黒潮や対馬暖流の影響下にある海岸に分布し、潮間帯から水深二〇メートルに生息する。砂泥底上に、特有な管の先端を出しているのを見えてわかる。体長三〇〜四〇センチ、体節数三〇〇内外。頭部には二本の前触手と五本の後触手



スコートタイ朝
王都であったスコートタイにある中央寺院(ワット・マハーパタータ)。ビルマ、クメールの
影響もあるが、ブラ・チュデーとよばれる仏塔などにスリランカの影響が強くみられる

手、それに一对の太い副感触手がある。また、
開口節の背面前縁に一对の触糸がある。眼点は
二個あって大きい。体前方の数対のいぼ足は大
きく、斜め前方に向き、それより後方のいぼ足
は体側方に伸びている。一本の軸の周りに鰓系
が取り巻いたえらが第五いぼ足から生じ、第六
〇七〇節まで続く。とくに前方の数対のえ
らは大きい。体前方が再生している個体がしば
しばみつかるが、管から体を出して餌をとって
いる際、魚などに食われたためと考えられる。釣
り餌によく用いられる。→イソメ 《今島 実》

スコーダ Josef Skoda (一八〇一～一八五八) オ
ーストリアの内科医。ボヘミアのピルゼンの貧
しい家に生まれる。苦学して一八三一年にウィ
ーン大学を卒業、医師となった。大学の助手と
して、打聴診法の研究に没頭し、三九年『打診
と聴診』の著書を公にし、鑑別診断法の基礎を
確立した。四八年科学学士院会員となった。ラ
エネクが主として肺疾患を研究の対象としたの
に対し、スコーダは心疾患に興味をもった。彼
の名を冠した医学用語、スコーダの打診音、水
泡音などを後世に残している。彼は診断に主力
を注ぎ、必要以上に多用された治療に反対する

「治療のニヒリズム」を特徴としたといわれる
新ウィーン学派の代表の一人である。また従来
の習慣であるラテン語による講義をドイツ語に
切り替えた最初の教授でもある。《古川 明》

スコートタイ Sukhothai タイ北西部、ス
コートタイ県の県都。チャオプラヤー川の四大支
流の一つヨムヨム川に沿う。人口二万一九
三(一九六〇)。一三世紀なかばにクメールの支配
を破りタイの独立国家スコートタイ朝がこの地
で成立、一四世紀なかばにアユタヤ朝に征服さ
れるまで、その王都であった。現在も宮殿、寺院な
どの遺跡が散在し、博物館もあり、タイ国家発祥
の地として多くの観光客が訪れる。《友杉 孝》

スコートタイ朝 ちよう Sukhothai カ
ンボジアのジャヤバルマン七世に服属していた
タイ人土侯が、アンコール帝国の北西辺境の町
スコートタイを攻略して創設したタイ人最古の王
朝(一三〇七～一四三六)。中国史料の暹がこれにあ
たることとされる。初代の王はシーイントラー
ティット。三代目のラーマカムヘン王は現存す
る最古のタイ語碑文(三三三)をつくった。同王
のときスコートタイは強大となり、ラオスのルー
アン・プラン、ビルマのバグ、マレー半島の
ナコン・シタマラート(リゴ

ル)にまでその勢力を伸ばす。ス
リランカ系の上座部(小乗)仏教
を受容し、盛んに寺院の建築、仏
像の製作を行った。スコートタイと
その周辺には、中国の技術の影響
を受けて製陶業がおこった。その
製品は各地に大量に輸出され、日
本にも「宋胡録」の名で知られて
いる。一四世紀中葉、南方にアユ
タヤ朝が興るとしだいに勢力が衰
え、一四三八年アユタヤに併合さ
れ独立を失った。《石井米雄》

スコッチウイスキー Scotch
whisky スコットランド産のウ
イスキー。スコットランドにおけ
る蒸留の記録は一五世紀の終わり
ごろから現れるが、現在の風味が
完成したのは一六世紀なかばのこ
とである。スコッチウイスキー
は、まずモルトウイスキーとグレ
ンウイスキーというタイプの違っ
たウイスキーをつくり、両者の特
徴を生かしたブレンドによってブ

レンデッドウイスキーがつくられる。モルトウ
イスキーは蒸留釜の構造が単純で、留出アルコ
ール濃度も低いため、エチルアルコール以外に
微量ながら数多くの物質を含んでおり、性格も
たいへん強く個性豊かである。スコットランド
には現在一七のモルトウイスキー蒸留所があ
り、地域的にはハイランド、アイル、キャンベ
ルタウン、ローランドの四つに大別されるが、
ハイランドをさらに細分するとイースタン、ス
ペイサイド、グレンリベット、ノーザン、パー
スシャー、アイランドの六地区となる。これに
対しグレンウイスキーはほとんどローランドで
つくられるが、連続式蒸留機を使用するので、
一四の蒸留所で全モルトウイスキーの一・五倍
のグレンウイスキーを生産している。グレンウ
イスキーは留出アルコール濃度も九五%近くと
高いので、性格も非常に温和である。実際に市
場に出るウイスキーは、ごくわずかのモルトウ
イスキーのほかほとんどブレンドドウイスキー
で、数多くのモルトウイスキーにより独自
の性格をつくり、グレンウイスキーによって強
い性格を和らげ、その銘柄の個性を完成させて
いる。現在ブレンドドウイスキーとして登録
されている銘柄は三〇〇を超え、が、市場の
ほとんどは一〇〇に満たない銘柄で支配されて
いる。→ウイスキー 《鴨川晴比古》

スコッチテリア Scotch terrier 哺乳綱
食肉目イヌ科の動物。家畜イヌの一品種で、イ
ギリス(スコットランド)原産の短脚テリア。岩
地で小獣を穴から追い出すのに用いられてきた
犬種で、体つきは小柄であるが頑丈、四肢は短
めである。当初は産地の名をとってアバディ
ンテリアといわれたが、一九世紀の終わりが
ころにスコッチテリアあるいはスコティッシュテ
リアといわれるようになった。体軀に比べて頭部
は大きく、小さな耳が高く位置して立ち、口吻
は長めで力強く、じょうぶな歯牙をもつ。尾は
断尾せず、先細りでまっすぐに保持される。
上毛は粗剛なワイヤ状で、下毛は密である。毛
色は黒、ブリンドル、グレーなど。大きさは体
高二五～二八センチ。《レイヌ(別刷)》《増井光子》

スコツボロ事件 一七九九年 Scottsboro
Case アメリカ合衆国南部のアラバマ州で一
九三一年に起こった黒人少年に対するでっち上
げ裁判事件。一三歳の最年少者を含む九名の若
い黒人が、貨物列車内で二人の白人女性を強姦
したかどで逮捕投獄され、ただちに死刑判決を

受けた。この裁判を、人種差別体制を象徴する
事件だと考えた共産党は、全国黒人向上協会
(NAACP)とともに無罪釈放運動に取り組
み、国際的な問題にした。「被害者」自身が強
姦の事実を否定、連邦裁判所が裁判のやり直し
を命じ、大統領が釈放を要請したにもかかわらず、結局、アラバマ州裁判所は最高九九年とい
う長期刑を言い渡した。しかし妥協が成立、五
〇年までには全員が釈放された。《上杉 忍》

スコット Sir Walter Scott (一七七三～一八三二) イギリスの詩人、小説家。八月一日、
スコットランドのエジンバラで裕福な弁護士
の子に生まれたが、幼時から病弱、一歳半のころ
熱病にかかり、それが小児麻痺を併発して、生
涯右脚の自由を欠いた。早くからラテン語を学
び、文学書に親しみ、一二歳の若さでエジンバ
ラ大学の古典学科に入学したが、二年目に病氣
中退。のち父の法律事務所で勉強して、二一歳
で弁護士となる。二五歳のときの処女出版はド
イツ語の翻訳。ナポレオン戦争に際しフランス
の侵入に備えた騎兵義勇隊の幹部になったり、
セルカーク州知事代理を務めたりの方、スコ
ットランドの民謡を収集して『スコットランド
辺境歌謡集』三巻(一八三〇)を編み出した。
創作詩として最初のめばしい作は『最後の吟遊
詩人の歌』(一八〇五)で、これで詩壇にも認めら
れ、ロマン派復興の一翼を担うに至った。以後
一八一三年ごろまでは彼の詩作時代で、一三年
桂冠詩人に任命されたが、友人のサウジー
に譲った。物語詩『マーマイオン』(一八〇八)、同
『湖上の美人』(一八〇九)などが彼の詩作の代表作
品である。

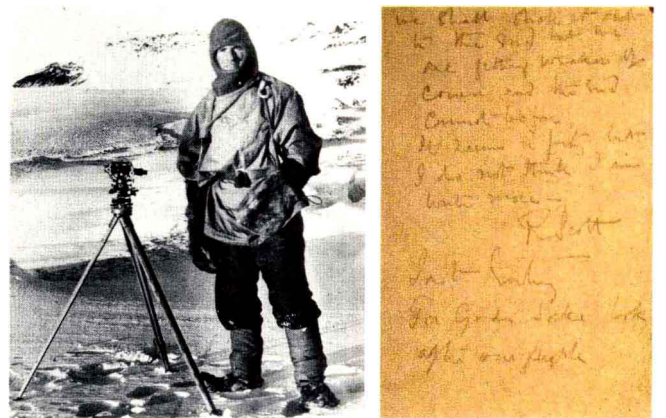


W.スコット
ランシーア画 ロンドン ナショ
ナル・ポートレート・ギャラリー

辟を圖つた反乱の史実を背景にした歴史小説で、世の好評を得た。これに自信を得た作者は、以後死ぬまでに合計二十七編の長編小説を書き、それらは第一作の題をとって『ウェーバリー小説群』の総称でよばれている。全部が歴史小説といつてよく、多くはスコットランドに材を求めているが、代表作とされる『ラムムアの花嫁』(二六八)、オペラ『ルチア』の原作、『アイバンホー』(二八二)、『ケニルワースの城』(二八三)は純然たるイングランドの歴史に材をとった。この最後の作ではエリザベス一世と女王を取り巻く人々が活躍する。ほかに中世の十字軍に材をとった『護符』(二八五)も異色作である。詩、小説を通じて、古い時代の武勇と恋愛の物語を中心とし、史実にはかならずしも拘泥せず、とくに小説では時代物的場面と世話物的場面とを巧みに織り交ぜて、複雑な変化に富んだ筋を展開するのが彼の独特な作風であり、それがまた彼の魅力でもあって、フランスなどでも広く愛読された。一八三二年九月二日没。↓
アイバンホー ↓湖上の美人 (朱牟田夏雄)
④ 朱牟田夏雄訳『世界文学全集6 ケニルワースの城』(二七五・集英社)▽大和資雄著『スコット』(一九五・研究社出版)

スコット Sir George Gilbert Scott (二二七) イギリスの建築家。バッキンガムシャーのゴースコット生まれ。ビクトリア朝の代表的なゴシック・リバイバリストで、一八四四年、ハンブルクのザンクト・ニコラス教会の設計競技に一四世紀のドイツ・ゴシックのデザインによって当選し、国際的な名声を獲得した。イリイ大聖堂やウェストミンスター寺院をはじめとする多数の大聖堂、教区寺院の修復も手がけた。宗教建築以外の作例に、ロンドンのセント・パンクラス駅およびホテル(二六六設計)やアルバート・メモリアル(二六三)などがある。著書に『個人的、専門的回想録』(二八八)がある。(谷田博幸)

スコット Charles Prestwich Scott (二八四) イギリスの新聞人。サマーセットシャーに生まれ、オックスフォード大学を卒業。記者修業のち、一八七二年、いこの所有する『マンチェスター・ガーディアン』(一八二一年創刊、五五年から日刊、一九五九年からガーディアンと改称)の編集長となり、一九〇五年その所有者となった。彼は「注釈は自由だが、事実は神聖である」というモットーを掲



R.F.スコット [左]南極探検中のスコット。1912年 [右]日記の最後のページ。1912年3月29日に記されたもので、「——われわれは最後まで耐えぬつもりだが、無敵体は衰弱してきており、最期はそう遠くない。残念な気もするが、これ以上書けそうにない。R.スコット 最後——神よ、われわれの家族をお守り下さい」(高橋泰邦訳)と読める。死を迎えようとする心境が綴られている。ロンドン 大英博物館

げて紙面内容の向上に努め、左派自由党系の独自の論調を展開して、純地方紙でありながら全国から注目される新聞にまで育て上げた。一八九五—一九〇五年自由党下院議員として活動したが、二九年には経営者の地位を子に譲って引退した。(伊藤慎一)

スコット Duncan Campbell Scott (二八三—一九四四) カナダの詩人。長く政府のインディアン行政に携わった。初期イギリス系カナダを代表する詩人で、洗練された西欧的教養と荒々しいカナダの原始との対立相克が、その作品に美しく結晶している。とくに詩集『新世界叙情詩とバラッド』(二九五)のなかの『捨てられた人』は、インディアンの子供の死に基づいた沈鬱にして鮮烈な詩編で、わが国の『楳嶺節考』とも呼応する。ほかに『労働と天使』(二八六)など一〇冊に近い詩集や二つの短編小説集などがある。(平野敏一)

スコット Robert Falcon Scott (二八六—一九一三) イギリスの南極探検家。一八八二年海軍に入り、一九〇一—〇四年、王立地理学会などの協賛によりディスカバリー号を指揮して南極を探検、エドワード七世ランドを発見した。功により帰国後海軍大佐に任ぜられた。一〇年テラ・ノバ号による第二次南極探検に赴き、一

一年ロス海から上陸、同年一月四人の隊員とともに南極点目指して出発した。言語に絶する辛苦のすえ、一二年一月一八日ついに南極点に到達したが、すでに約四週間前ノルウェー人アムンゼンが到達した跡が残されていた。先陣争いに敗れ、失意の一行は、帰途悪天候と食糧不足に悩まされ、三月末全員凍死した。同年末、捜索隊により彼らの遺体やスコットの日記が発見された。(松村 勉)

④ チェリー・ガラード著、加納一郎訳『世界最悪の旅』(『世界ノンフィクション全集1』所収・一九六・筑摩書房)

スコット Cyril Meir Scott (二八七—一九七〇) イギリスの作曲家、ピアノリスト、思想家。一二歳のときからフランクフルトとリバプールで音楽を学び、一九〇〇年には『英雄組曲』『第一交響曲』が初演される。作曲家としての名声は二五年のオペラ『錬金術師』によって頂点を極めるが、それは長続きしなかった。著作には音楽関係のほか医学、オカルティズム、詩作、自伝などが含まれている。(細川周平)

スコット Renata Scotto (一九三二—) イタリアのソプラノ歌手。サボナ生まれ。一九五三年ミラノでデビュー、同年スカラ座と契約し、五七年マリア・カラスの代役としてベッリーニの『夢遊病の女』のアミーナを歌い、高く評価された。以来、ドニゼッティ、プッチーニ、ベルディ、グノーなどのオペラの主役を世界の主要歌劇場で歌っている。コロラトゥーラ・ソプラノとして出発しながら、リリックやドラマチックなソプラノの役を、よどみのないベル・カンツォ唱法と結び付けて歌い、レパートリーも広い。

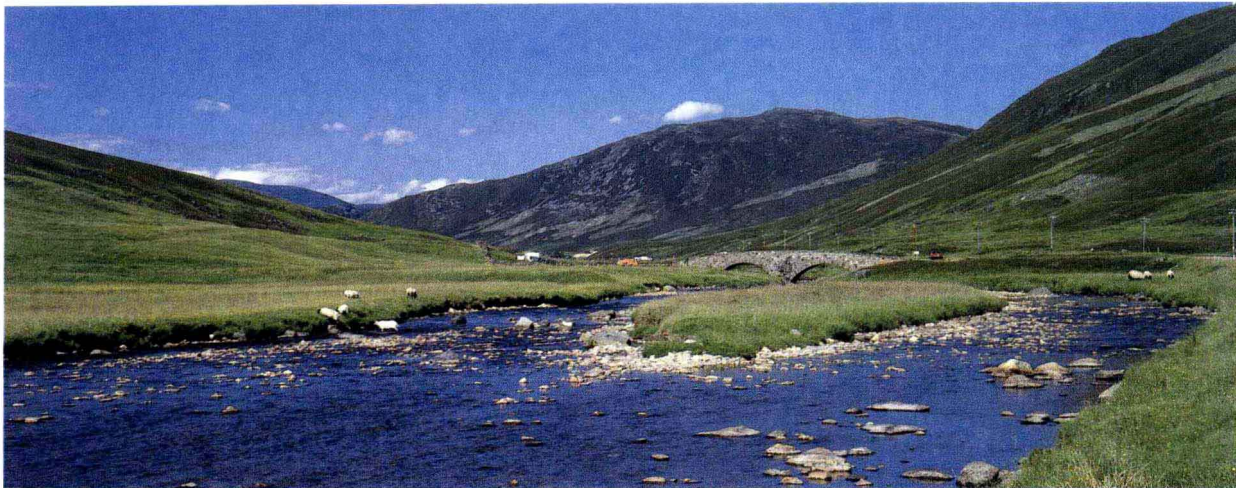
一九六七年(昭和四二)NHKが招いたイタリア歌劇団に参加して初来日、ドニゼッティの『ルチア』の主役で絶賛を博した。(美山良夫)
スコットランド Scotland イギリスを構成する連合王国の一つ。グレート・ブリテン島の北部を占める。面積七万八千七百二平方キロ、人口五十一万七千四百六十六(一九九六)。首都エジンバラと経済的中心グラスゴーが二大都市。北と西

は大西洋、東は北海に臨み、南はトウウィード川とチェビオット丘陵を境界としてイングランドと隣接する。地形的にはハイランド、グランピアン山脈、中央低地、サザン・アップランズに分かれる。氷食地形が発達し、氷河湖が多く、西岸にはフィヨルド海岸が多くみられる。北部にシェトランド諸島、オークニー諸島、ヘブリディーズ諸島がある。

気候は、暖かい北大西洋海流の影響を受けるため西岸海洋性気候となる。北西部のフォート・ウィリアムの月平均気温は最低の一月が四度C、最高の六月が一五度Cである。内陸部の山地は偏西風にさらされ、主要な低気圧の経路となっているため、年間を通じて低温多湿である。ペン・ネビス山の年降水量は四五七〇ミリにも達する。そのため土壌の溶脱、酸性化が著しく、作物の生育期間が限られるので、オート麦、大麦、ジャガイモなどの作物が卓越する。また、西岸のグリーンノックでは年降水量一五七三ミリであるが、東岸のエジンバラでは六九五ミリと、東へ向かうほど降水量は減少し、日照時間は逆に多くなる傾向がある。

幅八〇キロの地溝帯をなす中央低地は、肥沃な土壌と、ファイフ、ミッドローラン、エアシャー(各旧県)などの炭田、さらにクライド湾のような天然の良港に恵まれ、早くから交通の要衝として栄え、大都市が発達し、造船、機械、化学、製紙などの工業が集積してきた。セントラル・クライドサイド・コナベーション(グラスゴーを中心とする連接都市域)は、面積ではスコットランドの約一割を占めるにすぎないが、三五％の人口をもつ。ハイランドはスコッチ・ウイスキーの特産で有名である。また北西高地と島嶼部は人口希薄地帯で、人口流出が続いている。放牧地は共有であるが、可耕地は分割されてクロフターとよばれる小作人や小農が自給的農業を営む。海岸地帯ではこのようなクロフト制度に基づいた農業と、漁業によって生計がたてられてきた。ローモンド湖北西にある多雨地域(年降水量二六七〇ミリ)ではグリーン・シラ開発計画に基づき、ファイフ湾上流にあるクラッチャン発電所が一九五五年に完成し、アルミニウム製錬工業が立地するようになった。最北端の町サーソーから西へ二二のダウンレーには原子力発電所がある。また、フォート・ウィリアム近郊のコーパーッチにはバルブ・製紙工場が誘致された。このように、伝統

①



スコットランド

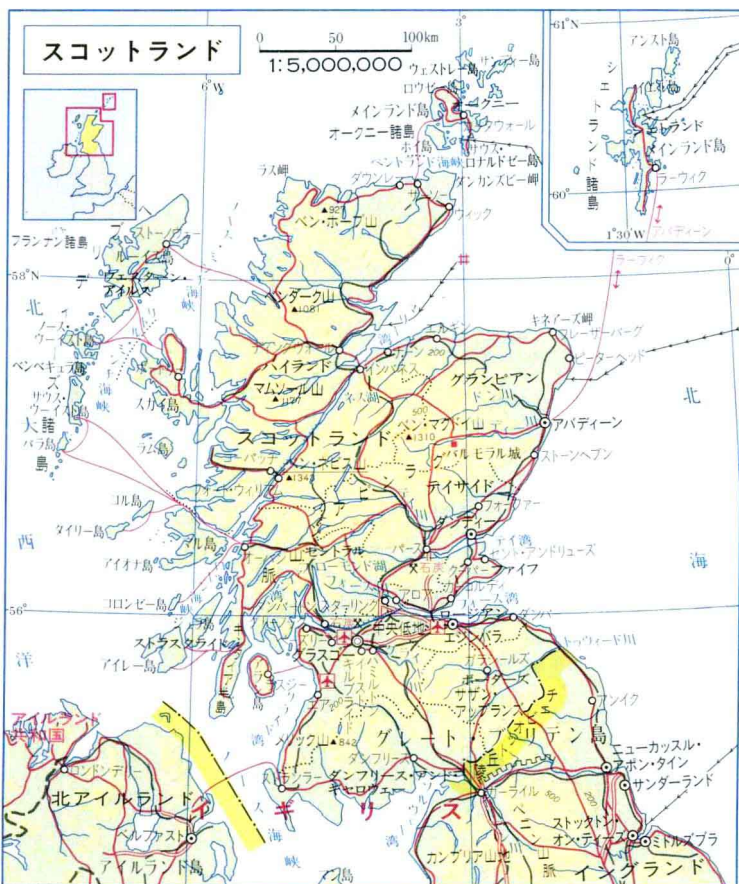
① 露岩の山地の間を清流が刻み、わずかな放牧地にヒツジがたわむれるハイランド風景。夏季はイギリスの代表的な観光地となり、キャンピング・カーで訪れる人が多い

②



② バース西27kmのクリーフで、ハイランド・ゲームの催し物として行われるスコティッシュ・ダンスのコンクール。5～8月には各地で同様の夏祭りが催される
③ フォース湾奥の都市グリーンジマス。精油工場隣接のゴルフ場でプレーする人たち。同市は北海油田の開発でスコットランドの主要な工業都市に発展した

③



的なクロフト制度農業、海産加工業、ウイスキー醸造業のほかに、最近では水力、原子力による計画的な発電所開発計画、木材、観光資源の開発によって北部のハイランド地域は大きく発展しようとしている。北東低地の沿岸地帯は、アバディーン、ピーターヘッド、フレージャーパークなどの主要港湾都市が発達し、北海、大西洋海域の漁業基地がある。アバディーンのピクトリア・ドックは北海海底油田の採掘の後方基地としてにぎわいをみせている。ここではツイード、リンネルなどの繊維産業、造船、食品加工業に加えて、北海油田開発に関連する産業が立地し、構造的な不況に悩むイギリス経済に刺激を与えている。

〔歴史〕考古学的発掘の結果、中石器および新石器時代にスコットランドには人間が住んでいたことがわかっている。彼らはアイルランドやヨーロッパ本土から移住してきたのであろうが、詳しいことは不明である。有史時代に入ると、ローマ帝政期に、アグリコラのもとにローマ軍が侵入し（後）、北東部スコットランドでケルト系諸部族を撃破したことが知られている。

〔米田 巖〕

る。二世紀なかば、ローマ軍は南部からフォース湾に至る地域を占拠し、アントニヌス防壁を築いた。これより遅れてスコットランド各地に、のちにスコットランド国民を形成する人々が到来した。六世紀にアイルランドからきたスコット人は、アーガイル（スコットランド西部の旧県）にダリアダ王国を建設し、その一人である聖コランは、五六三年、インナー・ヘブリディーズ諸島のアイオナ島（マル島南西）に修道院を建ててケルト系キリスト教を伝えた。古い時代の移住民の子孫であるピクト人は北部に居住し、ウェールズ方面からはブリトン人がきて南西部に住み着いた。六世紀後半にはアングル人が東部ロースランドに定住した。このうちまづ八四三年、スコット人とピクト人の融合がなつてアルバ王国がつくられ、その血統を引くダンカン一世が一〇三四年に即位して単一のスコットランド王国を樹立した。

初代のスコットランド王ダンカンは、シェークスピア劇に登場する人物と同名のマクベスに殺されたが、マクベスはダンカンの息子のマルコム三世に打倒された。このケルト的なスコット

トランド王国に大きな変化をもたらしたのは、マルコム王の王妃となったイングリッド出身のマーガレットである。マルコム三世の死（一〇九三）からジェームズ四世の即位（一四六八）までの時期には封建化が進行し、西欧キリスト教世界との同化が行われた。またイングリッドとの不和が激しくなり、一三世紀末から一四世紀初めにかけて、封建的上層を主張するイングリッド王家との間に、いわゆる独立戦争が遂行された。ところで一三七一一年、デビッド二世が後継ぎなしに死亡したため、王位は王の甥であるスチュアート家のロバート二世に移った。イングリッドとの不和の裏返しであるフランスとの提携は、スチュアート朝期にはいっそう強まり、ジェームズ五世（在位一五五〇～一五六八）はフランス出身の女性と二度にわたり結婚し、女王メアリー・スチュアート（在位一五六八～一五八七）はフランス皇太子と結婚するに至った。

しかしローマ・カトリック教会の墮落、およびこれと結び付くスチュアート王家のフランス勢力に対する反感から、一六世紀なかばには親イングリッド的な宗教改革運動が展開された。

ジョン・ノックスはイングリッドとジュネーブに亡命したのち、一五六〇年、カルバンの教義に基づくスコットランド教会を樹立した。カトリック教徒であった女王メアリーは、改革教会および貴族との闘争に敗れて退位し、イングリッドのエリザベスに庇護を求めた。メアリーの子ジェームズ六世は、一六〇三年、このエリザベスの死後イングリッド王を兼ね、イングリッドの富と力を背景に、教会と貴族とを懐柔し、スコットランドに対する強力支配を築き上げて、一六二五年平穏のうちに世を去った。

その後を継いだチャールズ一世（在位一六二五～一六四九）の統治は、父の治世とは対比的な様相を示した。彼は王室と教会のために、世俗領化した教会領の収入の回復を企てて貴族の反感を買った。さらにスコットランド教会とイングリッド教会との信仰の統一を目ざして、祈禱書を強制的に公布した。貴族層と牧師とは「国民契約」を作成して国王に反抗し、これが教会と国家の両面における革命をもたらした。一六四一年、王の譲歩により契約派の目標はほぼ達成されたが、事態の恒久化のためにはイングリッドの議会派との提携を必要とし、四四年には国境を越えて北から王党派を制圧した。しかし議会派の勝利はイングリッドの長老主義化を志した

契約派の希望を打ちくじき、五〇年代には議会派によるスコットランドの軍事的支配を引き起こすに至った。

一六六〇年の王政復古により、スチュアート朝の強権支配が復活して長老派は激しい迫害を受けたが、名譽革命（一六八八～九）に伴う一六八九～九〇年の革命は、ジェームズ七世の廃位とウィリアム二世、メアリー二世の即位をもたらした。イングリッドの「権利章典」に類似した

「権利要求章典」が議会によって採択され、同時に長老主義教会体制が恒久的な安定をみるに至った。革命後スコットランド議会は以前よりも独立的な地歩を獲得したが、行政者たちにはイングリッド政府の指名によるところが多かった。ついで一七〇〇年にアン王が死亡すると、予想されるスチュアート朝の消滅に伴う王位継承問題が、イングリッドとの間に政治的外交的な緊張を生み出した。その解決策として、一七〇七年に連合条約が成立し、スコットランドはグレート・ブリテン王国のうちに統合されることとなった。

④ 難波利夫著『オールド・ラング スコットランド』（一九九〇・日本経済評論社）▽村上文昭著『スコットランドあれこれ』（一九九〇・中央書院）▽飯島啓二著『島——その社会地理』（一九九〇・朝倉書店）▽David Turnock ed. : *Scotland's Highlands and Islands* (1974, Oxford University Press) ▽飯島啓二著『スコットランド・ウェールズの抱える問題』（一九九〇・青山吉信編『実像のイギリス』所収・一九九〇・有斐閣）▽D. Datches ed. : *A Companion to Scottish Culture* (1981, Edward Arnold, London)

スコットランド高地 —— こうち Scottish Highlands イギリス、スコットランド北西部に広がる高地。ハイランドともいう。↑ハイランド

スコットランド常識学派 —— じょうしきがくは 常識哲学

スコットランド民謡 —— みんなう イギリス音楽

スコットランド・ヤード Scotland Yard ロンドンにある首都警察、Metropolitan Police の別称。一八二九年の創立時代、

詰め所と後部出入口が、昔のスコットランド・ヤード（スコットランド王のロンドン屋敷跡）に向いていたために、その名のほうが一般的に

なった。創立当時は、制服警官のみの構成で、すべての警察活動を行っていたが、一八四三年、ロンドンに凶悪殺人事件が続発したときから、初めて私服の探偵が専任する犯罪捜査局が設けられ、これがのちにCIDという略称でよばれて、強力な犯罪捜査組織の中心になるようになった。その管轄はロンドン市内と、その周辺地区の一部。

イギリスは一貫した自治警察組織国家であるが、重大な犯罪事件また難事件にあつては、地方自治警察の要請によってスコットランド・ヤードが出勤し、CIDの豊富な経験と、資料を元にして捜査にあたる。現在、世界的に広く行われている刑事活動の始まりともなったもので、早くも一八五〇年に、このスコットランド・ヤードの探偵が登場する小説をディケンズが発表し、以後、イギリス推理小説や映画などで数々のスコットランド・ヤード刑事が生まれ、その存在を世界的に有名にした。スコットランド・ヤードは、国家的な政治犯罪、騒乱についても捜査権をもち、内務大臣の指揮、命令ができる機関である。

⑤ スコッティロー Rocco Scotellaro (一九三三～一九七〇) イタリアの詩人。南部の貧しい家に生まれる。若年から政治活動に取り組み、季節労働者とともに土地占拠運動に加わる。無実の罪を問われ、獄中生活を体験。作品はすべて没後の刊行で、詩集『夜が明けた』（一九五五）、獄中で書き始めた自伝的小説『熟さない葡萄』（一九五五）をはじめ、『南部の農婦』（一九五五）など、イタリア南部農民の社会的、文化的情況に密着した問題作によって、戦後ネオレアリズモ文学の一つの典型と目されている。〈古賀弘人〉

スコトウス ？ドゥンス・スコトウス

スコトウス・エリウゲナ Johannes Scotus Erigena (？一〇一〇～一〇七〇) ヨーロッパ中世初期の神学者、哲学者。アイルランドに生まれ、当時その地で培われていた古典文化の教養を身に付け、八四七年以前にカール二世に招かれてパリで教育・研究活動に従事したが、王の死後の消息は不明である。八五一年ごろ当時の神学論争に携わって、アウグスティヌスの傾向の強い『予定論』を書く。ポエティウスの註解を通じて信仰の論理的考究の方法を明確化し、また偽ディオニシウス文書を翻訳して、ラテン世界にこの特異な新プラトン主義的思想を導入した。主著『自然の区分について』

は新プラトン主義的傾向の顕著なキリスト教神学であり、神に発して神に至る全存在の円環的運動を描く、八～一〇世紀を通じて類例をみない壮大な思弁的体系である。この著作はあまりに大きな理性への評価と汎神論的傾向のために、教会からはしばしば異端と断罪されながら、西欧の神秘主義思想の重要な一源泉となった。↓スコラ哲学

⑥ スコーネ Skåne スウェーデン南部の地方。イオータランド地方南端に位置し、西にエアスン（イオーレスンド）海峡を挟んでデンマークに相對する。南と東はバルト海に面し、なかなか海岸線を描く。北部は緩やかな丘陵で、南に向かうにしたがって平野となり、北西より南東にかけて標高二〇〇メートルのオーストよばれる数条のホッグバック（急傾斜の同斜山稜）が走る。気候は海洋性で、比較的温暖。平均気温は二月〇～二度C、七月一七度C。気候、地質ともにヨーロッパ大陸とスカンジナビア半島との過渡の様相を呈し、植生も広葉樹が多い。面積一萬一、二八三平方キロメートル。人口一、二四四、一五二（一九七〇）。人口密度は一平方キロメートルに九四人。人口分布は極端に南西に多く、七五％が南西部に密集している。海岸沿いの都市は不凍港で重工業が発達し、平野は肥沃で大農場が多く、野菜、ジャガイモの作付けはスウェーデンで一、二、三、四当りの小麦の生産高は世界一。ヨーロッパ道四号線と六号線が、それぞれフェリーでデンマーク、東ドイツと連絡している。〈中島香子〉

⑦ 〔歴史〕有史以来一六五八年までデンマークの領土であったが、ルンドに民会を有し、「スコーネ法」とよばれた独自の法が存在した。デンマークの大神教会が置かれ（一〇三三～一〇五〇）、ニシン漁でも栄えた。その位置と富をめぐって国際的関心が集まり、一三七〇～一八五五年にはハンザ都市が西部スコーネを抵当として占領した。一五～一七世紀間にはバルト海の覇権を争うデンマーク・スウェーデン間の抗争地となり、第一次カール・グスタフ戦争の結果、西側のハラホルム島（のちに「デンマークへ復帰」とともにスコーネはスウェーデンに譲渡された（一六五八年ロススキレの和議）。続くスコーネ戦争（一六五八～五九）でデンマークはスコーネの奪還を意図したが失敗し、スコーネのスウェーデン化は一六六八年のルンド大学創立などにより着々と進行し、大北方戦争（一七〇〇～一七二一）時にはスウェー